

1. 会合名	証券化商品に関するワーキング・グループ（第9回）
2. 日時	平成23年12月21日（水）16時00分～17時30分
3. 議案	<p>1. 「標準情報レポーティング・パッケージ（SIRP）」の見直しについて</p> <p>2. 証券化市場の残高調査について</p>
4. 主な内容	<p>1. 「標準情報レポーティング・パッケージ（SIRP）」の見直しについて</p> <p>「標準情報レポーティング・パッケージ（SIRP）」（以下「SIRP」という。）の見直しに関するABS等（狭義ABS、RMBS、CLO）とCMBSの2つのサブ・ワーキング・グループにおける検討結果が報告され、議論が行われた。</p> <p>ABS等に関するサブ・ワーキング・グループからは、発行時開示項目の記載順について、開示府令と足並みを揃えることが、実際に使われる説明資料と整合的ではないかとの意見を踏まえ、発行時開示項目について、説明の実態を踏まえて記載順を並び替えることが提案された。</p> <p>CMBSに関するサブ・ワーキング・グループからは、裏付ローンのデフォルトといった事態への備えを行うことその他のSIRP制定後の実務対応の実態を踏まえた変更を行うことが有用ではないかとの意見を踏まえ、項目や注意書きの新設を行う等の改善を図ることが提案された。</p> <p>議論の結果、サブ・ワーキング・グループの提案の方向で検討を進めることとし、今後、外部からの意見も勘案して、再度議論を行い、年度内に、見直しを完了させることを目途とすることとされた。</p> <p>議論においては、次のような意見が出された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発行時開示項目の記載順について、開示府令と足並みを揃えることは、実際に使われる説明資料とSIRPとの比較が容易になり、投資家にとってのSIRPの利便性が向上するといえるのではないか。 ・ CMBSについて、SIRP制定後の実務を踏まえ、裏

付ローンのデフォルトといった事態への備え等を行うことは、有意義と考えられるのではないか。

- ・ 今後作成していくSIRPのガイドブックは、SIRPの項目とリスクの関係が分かるようなものにしてはどうか。
- ・ SIRPのガイドブックを記述する際には、細部にまで踏み込み過ぎると却って分かりにくくなるので、厳密さと分かりやすさのバランスに配慮することが必要ではないか。

2. 証券化市場の残高調査について

証券化市場の残高調査については、事務局より、次の要領で実施することが提案され、議論の結果、了承された。

<調査対象>

日本証券業協会と一般社団法人全国銀行協会が実施している「証券化市場の動向調査」で公表済の案件を、基本的な対象とする。

<調査方法>

アレンジャー等に対してアンケートを実施し、その結果と公表情報を総合して、残高を集計する。

<公表方法>

「証券化市場の動向調査」で使用している裏付資産区分に応じて集計した残高を公表する。

<調査頻度>

調査頻度については、試験的に実施する初回の調査の状況を踏まえて、今後、検討する。

試験的に実施する初回の調査については、2011年12月31日を基準日としてアンケートを実施し、3月中を目途に、集計値を公表することを目標とする。

議論においては、次のような意見が出された。

- ・ 証券化市場の残高の計数に関しては、本日、日本銀行調査統計局が「証券化商品残高」の公表を開始したが、調査の手法や公表の態様が異なることから、2つの調査は、相

	<p>互補完的なものとなり得るのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今回試験的に実施する残高調査の計数は、日本銀行調査統計局が公表した計数と異なるものとなる可能性があるため、2つの調査の相違点について、整理しておく必要があるのではないか。
5. その他	<p>本議事概要は暫定版であり、今後、内容が変更される可能性がある。</p>
6. 本件に関する問い合わせ先	<p>自主規制本部 自主規制3部（03-3667-8516）</p>